



審判部 & 広報部 コラボ



ハレ美も興味津々♡

“荒木部長の”

～ やってみて！ワンポイントアドバイス！！～

第4回目『ラリー終了後ルーティン（副審・記録員）』について

今年度の9人制の重点指導項目で、「ラリーの終了から次のサービス許可の吹笛までの間に、確認すべきことをルーティン化する」というものがあります。今回は副審、記録員について触れたいと思います。

★【副審】★

（ボールがデッドになる）すぐレシーブ側に移動（もともとレシーブ側にいた場合は主審から判断しやすいようにさらにレシーブ側に動く）→両ベンチが視界に入るように一歩ほど下がり、選手交代やタイムアウトの要求がないかベンチコントロールをする（この間に記録員は次のサーバーのチェックまで終わっているはず）→次のサーバーがボールを持ってコートから出たタイミングで記録員とサーバーが合っているかのアイコンタクト→主審と「問題ない」意図のアイコンタクトをしつつ、下がった分の一歩前を出て定位置につき主審のサービス許可の吹笛を待つ。ボールがデッドになって、副審がレシーブ側に移動することで、主審がラリーを取った側のサイドを出しやすくなります（副審側のワンタッチなど主審が判定しづらい場合など）。ボールがデッドになってすぐに記録員を見ると、記録員が慌ててしまうので（早く書かないと！とプレッシャーになることがあるそうです）、両ベンチに選手交代やタイムアウトの動きがないか確認してから記録員を見ると記録用紙を記入し終わっており、次のサーバーの確認がスムーズです。

★【記録員】★

（ボールがデッドになる）主審の判定のサイドを確認して記録用紙の得点を消す→サーブのサイドが変わる場合、直前のサーバーの欄にそれまでの得点を記入する→次のサーバーを記録用紙で確認し、サーブに行った選手が記録用紙と合っているか確認しチェックを入れる→副審と確認のアイコンタクトをする。記録員が実際に見たプレーで判定した内容で得点を消すのではなく、主審のサイドを確認して得点を消してください。ボールが落ちたことが印象的でも主審がネット際でオーバーネットやタッチネットなどの反則をとっていることもあります。